

令和4年度実施

中央区

地域活性化事業交付金

事業まとめ誌



相模原市 中央区役所

目次



「地域活性化事業交付金」について	1
------------------	---

小山地区

・小山一丁目の安全・安心環境づくり推進事業	2
・小山地域の人と人をつなげるプロジェクト	4

清新地区

・清新地区「清新ふれあいフェスタ」	6
-------------------	---

横山地区

・災害時黄色いタオルで安否確認プロジェクト	8
-----------------------	---

中央地区

・中央地区（富士見小の校庭で遊ぼう！）	10
---------------------	----

星が丘地区

・子育てマップ作成事業	12
-------------	----

光が丘地区

・地域で子どもを見守り育てる活動事業	14
--------------------	----

大野北地区

・伝統文化とのコラボレーションによる地域活性化事業	16
・望遠鏡で宇宙を覗いてみよう	18

田名地区

・田名地区自治会加入促進（退会防止）対策事業	20
・地域活動促進事業	22

上溝地区

・すきだよ かみみぞ～上溝かるたをつくろう～	24
・上溝地区「(仮称)「上溝ボランティアセンター」の 立ち上げと健康づくりスタンプラリー」	26

「地域活性化事業交付金」について

地域活性化事業交付金とは、より多くの市民の参加と協働による地域の活性化を目指し、本市のまちづくりを進めてきた22の地区で展開される市民による自主的な事業に対して交付される交付金です。

対象事業

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| ・地域の防災・防犯に関する事業 | ・地域の保健・健康づくりの増進に関する事業 |
| ・地域福祉の増進に関する事業 | ・産業や観光の振興に関する事業 |
| ・環境の保護・保全に関する事業 | ・青少年の健全育成に関する事業 |
| ・地域の文化・伝統の振興に関する事業 | ・生涯学習に関する事業 |
| ・地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業 | ・区が推進する重点事業 |
| ・その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業 | |

優先的な交付対象事業

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ・自治会への加入促進 | ・地域における公共的な活動の担い手育成 |
| ・公共的な活動への参加者増加 | ・地域の公共的な活動団体間の連携強化 |
| ・まちづくり会議が提示した地域課題の解決 | |

交付対象とならない事業

- | |
|---------------------------------------------------|
| ・政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業 |
| ・交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業 |
| ・政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業 |
| ・調査、研究を主たる目的とする事業。ただし、地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く。 |
| ・第三者への事業促進を求める事業 |
| ・前各号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める事業 |

交付金の申請者は、原則として交付金の趣旨に合致する事業を行う5人以上の構成員で組織される団体。

申請にあたり、事前に事業を実施する地区のまちづくりセンターの相談が必要。

当該年度の事業実施期間は、4月1日から翌年3月末までとする。また、同一の事業に継続して交付する場合は、3年を限度とする。

交付金の対象経費（交付率は10分の10以内）

- | |
|------------------------------------------------------------|
| ・事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等 |
| ・事業を行う上で必要な食糧費（交付対象者の構成員に対するものを除く。）、
備品購入費、施設使用料、備品借上料等 |
| ・事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等 |
| ・事業を行う上で必要な委託費等 |
| ・イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等 |
| ・講演会等の講師に対する報償費 |
| ・研修会の旅費等、研修に要する経費（交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く。） |
| ・その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの |

備品（物品等で1件1万円以上の財産）にかかる経費の交付率は、対象経費の3分の2以内。

小山一丁目の安全・安心環境づくり推進事業

チームくぼはら

1 背景と目的

小山一丁目は小山地区の西側に位置し、大部分を占める4つの企業の敷地、JR横浜線、県道相模原立川線に囲まれた準工業地帯である。区域内の住民の間では、住民の高齢化に伴い、防災や防犯についての課題が顕在化していることが挙げられた。

こうした課題を解決するため、住民の知識・意識の向上に向けた活動や大きな企業に囲まれているという地域特性から区域内の企業やそこで働く人との協力体制の確立が必要であるとの認識に至った。

2 内容

- ・防災マイスターによる防災講習会及び初期消火訓練を実施。
- ・区域内にある企業へ災害時に活用可能な場所や設備等について協力を依頼する。
- ・住民のコミュニティづくりのため、月1回のあいさつ運動及び清掃活動とあわせて、お散歩パトロールを実施。

総事業費：693,977円

うち交付金額：611,000円

3 成果と今後の展望

お散歩パトロールの実施により、小山一丁目内の火災や空き巣等の犯罪の抑止力に繋がった。また、区域内の企業と有事の際の協力体制について意思確認をすることができた。

11月に実施した「くぼはらフェスタ」では多くの自治会員へ向けて、お散歩パトロールやあいさつ運動等について発信することができた。

今後は「防災・防犯・環境美化」について、それぞれの実践力の向上を図るため、具体的な事業内容について検討したい。また、チームくぼはらで習得した防災等の知識について、小山地区全体へ向けて発信していきたい。

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
7月24日	小山公民館等	20人	みんなで防災(防災マイスター講演・消火訓練)
11月6日	小山一丁目内	60人	くぼはらフェスタ
11月30日 12月7日 12月14日	相模原市立 総合学習 センター	2人	市民大学「自助・共助ってなに? - 災害時、一人ひとりの行動が家族と地域を救う -」へ参加
12月24日 12月25日	小山一丁目内	16人	防犯防災パトロール
2月28日	小山一丁目内	8人	2区3区懇談会
3月11日	相武台地区	2人	相武台団地主催「いつもの防災」へ参加
3月12日	小山一丁目内	20人	倉庫備品整理



清掃活動時に使用するのぼり旗

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 小山一丁目の安全・安心環境づくり推進事業

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)	
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
			3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。		
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		今年度においては防災に関する講義への積極的な参加や講習会・イベントが開催された。
			2 事業が主体的に実施されたか。		
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		今回の事業において習得した防災に関する知識を小山一丁目内のみならず、小山地区全体へ発信すること。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		小山一丁目は小山地区の西側に位置し、大部分を占める4つの企業の敷地、JR横浜線、県道相模原立川線に囲まれた準工業地帯である。今回の事業において災害時における企業との協力体制の意思確認をすることができた。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- : 実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- : 実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- × : 実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

- A : B評価の基準を満たし、かつ、**が**複数つく場合
- B : 評価の視点全体を通じて**×**の項目がない、又は、**×**のついた項目も容易に改善しうる場合
- C : **×**の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

小山地域の人と人をつなげるプロジェクト

小山の地域をつなげる会

1 背景と目的

コロナ禍や小山地区内にある子ども会の激減により、人と人とのつながりや交流の希薄化が懸念されている。

こうした課題を解決するため「遊び」と「学び」を中心とした多世代交流の事業を実施し、地域住民同士のつながりを深め、より安全安心で住みよいまちづくりや地域の活性化を取り戻すことを目的としている。

2 内容

多世代交流事業の実施（絵手紙、廃油石けん作り、昔遊び体験等）

詳細の事業内容については「(参考)実施経過」を参照。

総事業費：51,745円

うち交付金額：50,000円

3 成果と今後の展望

小山地区内の子どもと高齢者を対象とした多世代交流事業を実施したことで、地域住民同士のつながりを深めることができた。また、小山地域内の関係諸団体と連携を図り、協力して事業を実施することができたことから、今後の活動の広がりを期待している。

ウィズコロナへ移行してきてはいるが、未だ生活に支障や制限があることから、地域住民同士の交流の場を設ける活動の必要性は高いものと思われる。コロナ禍で弱体化した地域のつながりを深める一助となるように活動を継続していきたい。



留学生と英語で楽しいクリスマスの様子

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
10月18日	小山公民館	6人	廃油石けん作り
10月30日	小山公民館	5人	みんなでけん玉にチャレンジ
12月17日	小山公民館	26人	クリスマスマジックショー
12月21日	小山公民館	26人	留学生と英語で楽しいクリスマス
12月24日	小山公民館	41人	クリスマスコンサート
1月21日	小山公民館	9人	絵手紙教室～ひなまつりに絵手紙を送ろう～
2月12日	小山公民館	14人	みんなで歌おう季節の歌思い出の歌
3月25日	小山公民館	10人	こどもも大人ものびのび遊ぼう！

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 小山地域の人と人をつなげるプロジェクト

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)	
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。		コロナ禍により地域住民同士の交流する場が減少している中、小山地域内の子どもから高齢者まで楽しめる多世代交流事業を計画・実施し、地域の活性化に貢献している。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
			3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。		
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。		目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		小山地域内の関係諸団体との連携を図り、協力して事業を実施している。
			2 事業が主体的に実施されたか。		
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- : 実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- : 実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- × : 実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

- A : B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B : 評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C : ×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

清新地区「清新ふれあいフェスタ」

清新ふれあいフェスタ実行委員会

1 背景と目的

令和3年度の清新地区まちづくり会議では、SDGsをテーマに地域課題について議論してきた。

課題解決の方法として、担い手やリーダーが集まれる企画や世代を超えたスポーツイベントの企画の実施が挙げられた。今年度の清新地区まちづくり会議では、これらを実行するため、今までにないイベントを行おうとeスポーツとふれあい動物園の企画を実施することになった。

2 内容

開催日時：令和4年10月30日（日）午前10時から午後2時まで

eスポーツとポッチャを学びながら体験できる場所を提供する。

ふれあい動物園を開設し、多世代が交流できる場所を提供する。

事業の周知は地域情報紙、自治会掲示板及び回覧板、学校や幼稚園等へのチラシ配布とする。

総事業費：417,943円

うち交付金額：417,000円

3 成果と今後の展望

令和4年10月30日に、清新小学校にて「清新ふれあいフェスタ」を実施した。当日は子供から高齢者まで幅広い世代が延べ700人以上参加した。体育館ではさがみはらeスポーツ協会の後援を得て、eスポーツ体験とポッチャ体験を実施した。校庭ではふれあい動物園が開設されたほか、パズル体験やバルーンアートが催された。

来年度に向けては開催の有無を含めて、まちづくり会議の中で話し合っていきたい。



eスポーツ体験の様子

(参考) 実施経過

実施日	参加人数	内容
7月13日	17人	目的の共有と方向性の決定
8月17日	15人	具体的な内容の決定、スケジュール管理
10月19日	19人	清新ふれあいフェスタ当日の役割分担
10月30日	700人	清新ふれあいフェスタ開催
12月14日	17人	清新ふれあいフェスタの振り返り

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 清新ふれあいフェスタ

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。		令和3年度の清新地区まちづくり会議で地域の課題が抽出された。今年度はその課題解決のために清新ふれあいフェスタを行った。さがみはらeスポーツ協会との繋がりや世代間の交流が生まれ、地域の活性化につなげることができた。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。		目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業はまちづくり会議を中心に話し合いがされ、当日の運営を含めて主体的に実施された。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。		初めての試みとなったが、少ない担い手の中でも無事に開催することができた。参加者からも喜びの声を聞くことができた。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- : 実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- : 実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- × : 実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

- A : B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B : 評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C : ×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

災害時黄色いタオルで安否確認プロジェクト

横山地区安否確認プロジェクト

1 背景と目的

横山地区ではこれまで災害発生時における居住者の安否確認の体制が整っておらず、まちづくり会議でも課題として取り上げられ、昨今の災害リスクの高まりに伴い、その手法と体制作りが急がれていた。また、コロナ禍における避難所での密を避けるため、在宅避難・分散避難が推奨されており、その点を考慮した体制も求められている。黄色いタオルを家屋から掲示する安否確認方法は、災害発生後の被災・被害状況確認を迅速に行うことを可能とすることができ、併せて、非接触で行えるこの安否確認方法は、感染拡大防止の観点からも有効であると考えた。

2 内容

- 黄色いタオルを作成し、まずは自治会の協力を得て自治会加入世帯に配布し、大規模災害発生時において、救助が不要な世帯に、玄関前・窓など外から見やすいところに掲示してもらい、安否確認を迅速に行うための訓練を行う。
- 今年度については、地区の取組として体制作りと案内、連合自主防災隊と協力して地区防災訓練の一環として実施につなげる。

総事業費：794,882円

うち交付金額：780,000円

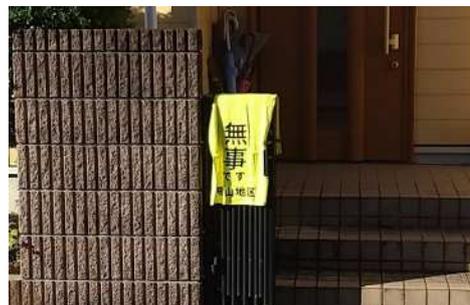
3 成果と今後の展望

令和4年12月18日(日)に横山地区全体で安否確認訓練を実施した。

【配布数：3375枚 掲出数：1858件 未掲出：1517件】

掲出率は55%で、初めての試みとしては一定の成果が得られた。また、単位自治会で黄色いタオルを活用して毎月の安否確認訓練を行うなど、事業の広がりが見られた。

今後は継続的な訓練実施により、掲出率向上（安否確認訓練の意義浸透）と表出した課題への対応を図り、さらには自治会員外への対象拡大（加入促進効果の期待）につなげていく。



玄関先に掲出された黄色いタオル

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
9月1日	横山公民館	2人	タオル等納品確認
10月5日	横山公民館	5人	チラシ作成・発注
10月8日	横山公民館	5人	物品仕分け作業
10月18日	横山公民館	25人	単位自治会へタオル配布
11月15日	横山公民館	25人	単位自治会へチラシ配布及び安否確認訓練説明
12月1日	横山地区		地域情報誌 訓練案内掲載
12月18日	横山地区	1,858人	安否確認訓練実施
2月4日	横山公民館	9人	安否確認訓練振り返り

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 災害時黄色いタオルで安否確認プロジェクト
(横山地区安否確認プロジェクト)

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	
			3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	タオル配布の段取り、チラシ・ポスター作成、訓練の準備など、ほとんどの部分を地区連事務局が担っていた。2年目以降は団体メンバー及び自主防災隊員が主体的に実施すること。
			2 事業が主体的に実施されたか。	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	配布したタオルが単位自治会での防災訓練に活用されるなど、事業の広がりが見られた。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	既に同様の訓練を実施している単位自治会があったことや、区内には団地が多く、タオルによる安否確認が相性が良いことなどから、初年度としては比較的高い掲出数であった。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	

各視点の評価

- : 実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- : 実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- × : 実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

- A : B評価の基準を満たし、かつ、**が**複数つく場合
- B : 評価の視点全体を通じて**×**の項目がない、又は、**×**のついた項目も容易に改善しうる場合
- C : **×**の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

中央地区（富士見小の校庭で遊ぼう！）

学校の校庭で遊ぼう実行委員会

1 背景と目的

中央地区まちづくり会議のテーマの一つとして、近年、子どもが思い切りボール遊びをする場所が減少していることを取り上げてきた。こうした課題を解決することを目的に、学校の校庭開放事業を実施するに至ったもの。なお、本事業は、上述の課題解決に加え、事業を通して世代間交流を深めることや、子どもの教育・育成に関わる地域人材を発掘することにも寄与することを目的としている。

2 内容

- ・富士見小の校庭で、児童を対象に、ポッチャ・フットサル、ドッジボールを実施する。
- ・開催案内のチラシを作成し、富士見小の児童全員に配布し周知する。
- ・地域の有志、富士見小PTA、中央公民館専門部員などが参加して活動を推進する体制を構築し、事業の遂行を通じて、地域の人と人、人と組織のつながりを深める。

総事業費：110,264円

うち交付金額：110,000円

3 成果と今後の展望

中央地区まちづくり会議にて議論されてきた「子どもが思い切りボール遊びが出来る場の減少」を解決するという目的を掲げ、今回が初の試みとなったが、結果として127名が参加し盛大に開催することができた。また、趣旨に賛同する多くの団体・個人から協力が得られたことも大きな成果となった。

今後の展開としては、以下のとおり進めていくことを検討している。

- ・3か月に一度の定期的な「富士見小の校庭で遊ぼう！」の開催
- ・「富士見小の校庭で遊ぼう！」と同様のイベントの中央小・弥栄小での開催
- ・富士見小の4時限一斉下校後の、校庭で遊ぶ子どもたちの見守り。



フットサルの様子

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内容
4月7日	5人	実施計画検討、策定
5月13日	5人	チラシ完成、配布開始
6月4日	147人	「富士見小の校庭で遊ぼう！」実施 (一般参加者127名、協力者約20名)
6月20日	5人	反省会
7月11日	4人	実施報告書の内容確認
7月21日	5人	中央地区まちづくり会議で実施報告

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 中央地区(富士見小の校庭で遊ぼう！)

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。	本事業で解決すべき地域課題は、近年の子どもが思い切りボール遊びが出来る場の減少であり明確だった。また、この課題を解決するため、子ども達に思い切り遊べる場を提供することを目的としており、地域ニーズにマッチしていたといえる。 本事業を通して、今まであまり地域活動に馴染みのない人の参加もあり、また、各地域活動団体が連携して実施したことで、第2条第2項の視点を取り入れた事業であったともいえる。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	
			3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。	本事業は、子どもに思い切りボール遊びが出来る場を提供するものであり、比較的、子ども人気の高いドッジボール、サッカー、そしてパラスポーツとしても近年注目度の高いポッチャを取り入れたことで、多くの参加者を募ることができたので事業内容は妥当であった。 また、支出は、初めての事業ということもあり、子どもそして親が安心して事業に参加できるよう保険を掛けたことと合わせて、チラシ等の印刷費、またボールなどの備品購入と必要最小限に留め、かつ、支出も明瞭であったといえる。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	本事業は、まちづくり会議で出された地域課題から派生して実行委員会形式となり進められた事業であり、全体を通して地域人材が自立的・主体的に取り組んだ。 また、事業実施にあたっては、各種団体が協力してくれており、次回以降の開催にあたっても協力をすることに合意いただいていることから継続性が期待できる。 事業継続にあたっての資金調達についても、今回実績を積んだことで、別団体から保険対応可能との評価を受けている。
			2 事業が主体的に実施されたか。	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	本事業は試験的に富士見小学校を対象として行った事業であることから、今後は中央地区内の他の小学校にも波及させることを目的としている。 今回の事業実施で、こういった事業を展開すれば子どもが集まるのかといった課題も新たに発見できたため、今後の事業展開での新たな手法の導入が期待できる。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。	休日ながら総勢127名の参加があり、初回としては大きな成果を上げたといえる。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	本事業は、重点的な取り組みである「子どもの健全な育成環境の充実」に該当する事業といえる。 また、校庭という地域資源を生かし、子どもが実際に思い切りボール遊びを楽しむ事業を展開したことで工夫も見られた。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	

各視点の評価

○：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。

○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。

×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

A：B評価の基準を満たし、かつ、が複数つく場合

B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合

C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

星が丘地区 子育てマップ作成事業

子育てマップ作成委員会

1 背景と目的

核家族化が進んでいる中、子育て中の保護者が子育てで不安にならぬよう、身近な場所の子育てに役立つ生活情報が必要である。

そのような状況の中、平成26年度に「子育てマップ」を改訂したが、改訂から7年が経過し地域内の様子も変化したため、昨今の状況やデジタル化へも対応したマップへ改訂することで、子育て家庭への支援に役立てる。

2 内容

- 子育てマップを2,500部作成し、各家庭に配布する。
マップサイズ：A3版（4つ折り）
配布対象：0歳児～6歳児の子育て家庭（小学校入学前）

総事業費：339,738円

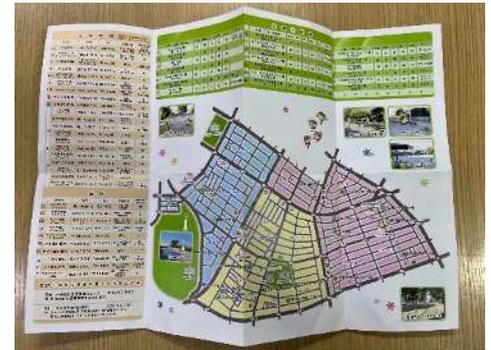
うち交付金額：332,000円

3 成果と今後の展望

子育てマップを作成し各機関等を通じて配布することで、子育て中の保護者が保育園・幼稚園・公園・医療機関などの情報を知ることができ、子育ての不安解消に役立てることができた。

地区担当の保健師さんへ配布依頼することで新生児のいる家庭へ渡すことができた。

また、ホームページやQRコードを掲載することで、より多くの情報を伝えることができた。今後は更なるデジタル化に伴い情報発信方法の変更も必要と思われる。



子育てマップ

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
4月	地区内		委員会発足 表紙イラスト依頼、印刷・デザイン見積依頼
5月～7月	地区内	8～10人	マップ内容検討 公園・広場の遊具確認、医療機関の確認
10月	地区内		印刷業者へ発注
11月	地区内		印刷完了、納品
11月	地区内		保育園、幼稚園、保健師、民生・児童委員などへ配布

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 星が丘地区 子育てマップ作成事業

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)
1	公共性 事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。		マップの内容やデザインを既存のマップから更新し、見やすく、持ち歩きしやすいようにしたほか、マップにQRコードを掲載しインターネットと連動できるようにするなど、若い世代がより利用しやすいような工夫をし、星が丘地域で子育てをする世帯の一助になったと考えられるため。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。		
2	妥当性 事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3	継続性・自立性 団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		マップの修正事項の確認や校正など、委員会のメンバーで協力して事業が実施された。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4	波及性・発展性 事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5	目標設定 目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6	区独自の視点 事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- : 実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- : 実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- × : 実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

- A : B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B : 評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C : ×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

地域で子どもを見守り育てる活動事業

光が丘地区こども応援団

1 背景と目的

共働き家庭が増加し、子どもたちだけで過ごす時間が長くなっていることから、子どもたちを対象とした見守り活動は、登下校の時間帯に限らず、犯罪や交通事故防止のため大変重要となっている。また、子どもを標的にした犯罪や自転車事故等は1年を通じて発生し、保護者は子どもたちを自由に遊ばせることや、外出させることに不安を感じていることから、小中学校PTAのOBなどで光が丘地区こども応援団を立ち上げ、学校の登下校時の見守り活動に加え、登下校以外の時間帯の子どもの安全（犯罪、事故を防ぐ）を確保する等の活動を行っている。

2 内容

- こども応援団ニュースを発行し、団体の取組を広く地区内に周知することで、地区内の子どもの見守りに対する関心を高め、協力者を募る。
- 子どもに関する課題について必要な知識や実践方法を学ぶため、講師を招いて研修会を開催する。
- より多くの幅広い世代に通勤、買い物、犬の散歩時に合わせ、早朝・深夜などの可能な時間に無理なく見守り活動のご協力をいただき、不審者、危険個所などの情報を共有する。
- 学校と地域を結ぶコーディネーターとしての役割を担い、中学生ボランティア活動の窓口、学校教育への支援に携わる。

総事業費：179,413円

うち交付金額：178,000円

3 成果と今後の展望

コロナ禍で今年度も活動の制約がされる中、子どもたちをどうしたら応援できるか思案した1年だったが、規模を縮小しながらも活動を行うことで、世代を越えた繋がりができ、子どもたちの居場所づくりや、安全を確保することができた。また、こどもに関する課題について、必要な知識や、対応方法を学んだうえで、より良い支援方法を検討することができた。

これまでの取組を継続していくことはもちろん、子どもたちが成長していく過程で地域との関わりを絶やすことなく、安心して暮らしていける環境づくりを目指し、活動を実施していく。

(参考)実施経過



「ヤングケアラーについて学ぶ」講演会

実施日	実施場所	参加人数	内容
通年	-	-	こども食堂協力、見守り活動、不審者情報共有、登校支援
7月3日 9月11日 2月26日	光が丘公民館	会員 5名	中学生こどもまちづくり会議
10月30日	光が丘公民館	会員 6名	わんわんパトロール登録会
12月4日	青葉小	会員 10名	こども未来ワールド（段ボール迷路）協力
2月13日	光が丘公民館	70名	「ヤングケアラーについて学ぶ」研修会

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： **地域で子どもを見守り育てる活動事業
(光が丘地区こども応援団)**

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。		光が丘こども応援団及びまちづくり会議にて課題の検討がなされており、地域課題に則した目的の設定がされている。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。		設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		こども応援団が主体となり、自ら学ぶ姿勢を持ちながら課題解決に取り組んでいた。積極的に協力者を募集する活動を行いながら、地域防犯の課題解決に関する事業が実施された。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- : 実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- : 実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- × : 実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

- A : B評価の基準を満たし、かつ、**が複数つく場合**
- B : 評価の視点全体を通じて**xの項目がない、又は、xのついた項目も容易に改善しうる場合**
- C : **xの項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合**

伝統文化とのコラボレーションによる地域活性化事業

ふちのべ星援隊

1 背景と目的

大野北地区には複数の大学が立地していることやJAXA相模原キャンパスの最寄り駅であること、図書館、地区公園があることなど、市内でも文化的な色合いの濃い地区である。

このため、日本古来の伝統文化とコラボレーションすることにより、特色のある地域活性化事業ができるのではないかと考え、世界文化遺産にも登録されている民俗行事である「なまはげ」を大野北地区内の子ども達に体験してもらい、地域文化への興味や地域愛の醸成を図る機会とする。また、日頃体験することのできない、なまはげ太鼓の実演を通じて、住民同士の交流促進を図る。

2 内容

男鹿和太鼓愛好会による、世界文化遺産に指定された「なまはげ」によるパフォーマンスと「なまはげ太鼓」の披露（大野北公民館大会議室、淵野辺駅デッキ下にて2回実施）

総事業費：450,000円

うち交付金額：450,000円

3 成果と今後の展望

日本古来の伝統文化とコラボレーションすることにより、大野北地区の特性を踏まえた特色のある地域活性化事業を行うことができた。

多くの方に参加いただけコロナ禍で途絶えていた、住民同士の交流が図られた。今後も、幅広い世代の地域住民が気軽に参加できる事業を開催していきたい。



大野北公民館 大会議室



淵野辺駅北口オーロラデッキ下

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
12月	大野北公民館	約100人	世界文化遺産に指定された「なまはげ」によるパフォーマンスと「なまはげ太鼓」の披露
	淵野辺駅デッキ下	約250人	

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 伝統文化とのコラボレーションによる地域活性化事業（ふちのべ星援隊）

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。		日本古来の伝統文化に直接触れられることを通して、地域の文化に興味を持つきっかけづくりとなり、地域への愛着を深めるために寄与する本事業は、世代間交流を図れるなど地域のニーズにマッチした事業であり、解決すべき地域課題は明確であった。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。		事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		開催に向けた出演団体との交渉や会場の手配、チラシ配布など広報を申請団体が主体的に実施されていた。 当日の運営も申請団体により自主的に進行された。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。		地域住民が地域の文化に興味を持つきっかけとなり、地域への愛着を醸成できた。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		世界文化遺産に登録されている民族行事である「なまはげ」を体験することで、自分たちの地域の文化に興味をもち、地域愛の醸成を図ることを目的とした事業であり、区別基本計画の「取組の方向」（全ての区民が連携・協働できるよう取り組みます）に沿った内容であった。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、**が複数つく場合**
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、**×のついた項目も容易に改善しうる場合**
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

望遠鏡で宇宙を覗いてみよう

大野北&淵野辺をこよなく愛する会

1 背景と目的

大野北地区には複数の大学が立地しているとともにJAXA相模原キャンパスもある。また市立図書館、鹿沼公園など公共施設も多く、市内でも文化的な色合いが濃いことに加え、「銀河」、「宇宙」をキーワードとしてまちづくりが進められてきた地区である。

このため、地域の活性化を図る取り組みにおいて、宇宙を身近に感じてもらえる事業を行うことは、大野北地区の特性を踏まえた地域活性化事業であると考え、星の観望をしながら「宇宙」についての講話を聞き、宇宙銀河の音楽を聴くことで、宇宙や銀河を身近に感じてもらい、地域愛の醸成を図るとともに、子どもたちにはJAXAや宇宙への興味や関心を持ってもらうことで、将来の宇宙飛行士や宇宙プロジェクトへの参画を目指す大きな夢や希望を膨らます機会とする。

2 内容

- ・宇宙科学研究所 宇宙科学広報 大川 拓也氏による講話と星の観望
- ・川崎純情小町による星に願いを等、宇宙銀河の楽曲演奏

総事業費：630,000円

うち交付金額：630,000円

3 成果と今後の展望

大勢の親子に参加いただき、大野北地区の特色である宇宙や銀河を身近に感じてもらい、子どもたちにはJAXAや宇宙への興味や関心を持ってもらうことができた。

大野北地区の特色である宇宙や銀河に関する事業で、子どもたちに宇宙に対する夢や希望を膨らませる機会となっているので、継続して実施していきたい。



夏の観望会 鹿沼公園



講演会 淵野辺小学校



冬の観望会 淵野辺小学校

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
8月	鹿沼公園	約50人	宇宙科学研究所 大川拓也氏の講演と星空観望
12月	大野北公民館	約50人	宇宙科学研究所 大川拓也氏の講演 曇天のため観望会は中止
3月	淵野辺小学校	約200人	宇宙科学研究所 大川拓也氏の講演と星空観望

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 望遠鏡で宇宙を覗いてみよう
(大野北&淵野辺をこよなく愛する会)

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。		大野北地区の特色である宇宙や銀河を身近に感じてもらい、地域の特色に興味を持つきっかけづくりとなり、地域への愛着を深めるために寄与する本事業は、参加者同士の交流を図れるなど、地域のニーズにマッチした事業であり、解決すべき地域課題は明確であった。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。		事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		開催に向けた出演者との交渉や会場の手配、チラシ配布など広報を申請団体が主体的に実施されていた。 当日の運営も申請団体により自主的に進行された。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本項目の全ての評価の視点を満たしている。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。		地域住民が地域の特色に興味を持つきっかけとなり、地域への愛着を醸成できた。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		大野北地区の特色である宇宙や銀河について、望遠鏡での星空観察にとどまらず、専門家の講演や宇宙や銀河にまつわる楽曲演奏をとおして、自分たちの住む地域の特色に興味をもち、地域愛の醸成を図ることを目的とした事業であり、区別基本計画の「取組の方向」(全ての区民が連携・協働できるよう取り組みます)に沿った内容であった。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- : 実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- : 実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- × : 実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

- A : B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B : 評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C : ×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

田名地区自治会加入促進（退会防止）対策事業

田名地区自治会加入促進（退会防止）対策部会

1 背景と目的

田名地区では、自治会加入率の低下によって、老人クラブや社会福祉協議会等の地域活動団体の活動にも影響が生じてしまうことを懸念し、まちづくり会議においても「自治会加入率の低下をまち全体の課題」として取り上げているところである。

そのため、田名地区自治会連合会の専門部会として、田名地区自治会加入促進（退会防止）対策部会を設置して各種事業を行った。

2 内容

- 田名地区情報サイト「たななび」の改修（散策マップ機能・子育てマップ表示機能等）
- 自治会加入申し込み案内書の作成
- 自治会加入促進リーフレットの増刷
- その他目的達成に必要な事業

総事業費：901,865円

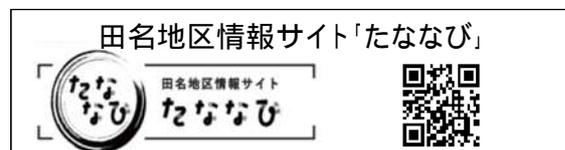
うち交付金額：900,000円

3 成果と今後の展望

自治会等の団体活動紹介だけでなく、散策マップや子育てマップの機能をホームページに追加することで田名地区の歴史や史跡、子育て関連施設情報を幅広く周知することが可能となった。

また、子育てマップ表示機能については、田名地区民生委員児童委員協議会が作成した同マップ（紙）を補完するよう作成されており、地区自治会連合会と地区民生委員児童委員協議会が連携して取り組めた。

今後も自治会加入促進という視点だけでなく、田名の魅力や役立つ情報を積極的にホームページで発信して、田名地区や地域活動団体のことを広く周知するために地区内の他団体と協働して取り組んでいきたい。



（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
10月下旬	-	-	自治会申し込み案内書作成 5,000部 リーフレット増刷 日本語版 2,000部、英語版 2,000部
12月	-	-	ホームページ新機能リリース ・散策マップ機能 ・子育てマップ表示機能 ・アクセス数表示機能 など
3月中旬	-	全自治会	自治会加入促進キャンペーンの実施 (リーフレット等の配布)

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 田名地区自治会加入促進(退会防止)対策事業

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。		田名地区だけでなく、市域全体の課題である自治会加入率低下を課題と捉えた本事業は、まちづくり会議において提示されている喫緊の課題であり、また、数値目標等は設定していないものの、解決すべき地域課題は明確である。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。		設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業実施にあたって、部会が中心となり企画調整を行い、コンテンツ作成(散策路作成、子育てマップ作成)箇所では各団体や担当者を割り振って行われるなど、主体的に事業実施が行なわれた。 また、事業を継続・発展させていくための人材発掘にも積極的に取り組んでいた。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		今年度事業では地区民生委員児童委員協議会と連携して子育てマップの表示機能を追加するなど、HPの利便性の向上に努めた。 また、一部の単位自治会ではHPを自治会掲示板のように活用しており、事業の発展や地域活動団体に対して良い影響を及ぼしている。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。		少しずつではあるが、HPアクセス数増加やHPからの自治会加入申し込みがあるなどの成果を上げていると認められる。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		補助事業の目的が「自治会加入促進(退会防止)」であったことから、すぐに成果が出るものではないが、HPから自治会加入を申し込まれる方もいるなどの成果が見られる。 また、散策路マップの地域活用や地区民生委員児童委員協議会との連携のように地域特性や地域資源を生かした事業といえる。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価
 : 実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○ : 実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 × : 実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

A : B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
 B : 評価の視点全体を通じてxの項目がない、又は、
 xのついた項目も容易に改善しうる場合
 C : xの項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

地域活動促進事業

田名地区まちづくり会議地域活動促進部会

1 背景と目的

田名地区では、自治会加入率の低下によって、老人クラブや社会福祉協議会等の地域活動団体の活動にも影響が生じてしまうことを懸念し、まちづくり会議においても「自治会加入率の低下をまち全体の課題」として取り上げているところである。

令和4年度には、子どもが参加することでその保護者（子育て世代）にも、地域活動に対して興味を持ってもらい、関わってもらえるよう、「子どもを対象とした事業（イベント）」を地域で開催することを目指し、話し合いを進めてきた。また、実際に「子どもを対象とした事業（イベント）」の地域ニーズについてアンケートを実施するとともに、田名小PTA主催の「田名っ子フェスティバル」に「ふれあい動物園」（子どもを対象としたイベント）を出展し、今後の取組に対する検討材料とすることとした。

2 内容

イベント意向調査（田名っ子フェスティバルでの街頭調査、田名北小学校保護者）
ふれあい動物園の実施

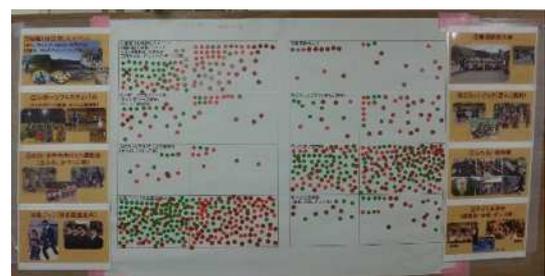
総事業費：128,000円

うち交付金額：128,000円

3 成果と今後の展望

田名地区内で開催して欲しいイベントの調査を田名北小学校児童保護者と田名っ子フェスティバル参加者（児童及び保護者）に対して行い、その結果を田名地区まちづくり会議で話し合う基礎資料とした。

今後については、今年度の調査結果を基に、子育て世代に参加してもらえようようなイベントの実施やイベントに参加した人が自治会等の地域活動にも関わってもらえようような取組を検討していく。



（参考）実施経過

ふれあい動物園の様子と街頭アンケート

実施日	実施場所	参加人数	内容
9月下旬から 10月上旬	田名北小学校	-	田名北小学校保護者へ地域イベント等意向調査を実施した。
11月19日	田名小学校	-	田名っ子フェスティバル（田名小学校PTA主催）に参加して次の催しを行った。 ・ふれあい動物園の開催 ・街頭アンケートの実施

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： **地域活動促進事業**
(田名地区まちづくり会議地域活動促進部会)

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)
1 公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。		田名地区だけでなく、市域全体の課題である自治会加入率低下を課題と捉え、若い世代(子育て世代)にも地域活動に興味を持ってもらい、関わってもらえるような取組を検討している中、その基礎資料とすべく事業実施したものである。なお、数値目標等は設定していないものの、解決すべき地域課題は明確である。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。		
2 妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。		
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3 継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業実施にあたって、まちづくり会議部会で企画検討を行い、イベント出展では担当者を分けるなど、主体的に事業実施が行なわれた。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4 波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		地域のイベントニーズを把握できたことから、次年度は若い世代を巻き込む形で更なる事業の発展が見込まれる。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5 目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。		即時に設定した目標を達成するものでないが、基礎資料を得られたことが成果であると考える。
6 区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		補助事業の目的が「自治会加入促進」「公共的な活動への参加者増加」であったことから、すぐに成果が出るものではなく、今後の地道な取り組みによって結果が表れてくるものと考え。しかしながら、地域の若い世代(子育て世代)のイベントニーズを把握することができたことから、次年度は目標達成に向けて取組を進めてもらいたい。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- : 実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- : 実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- × : 実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

- A : B評価の基準を満たし、かつ、 が複数つく場合
- B : 評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C : ×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

すきだよ かみみぞ ～上溝かるたをつくろう～

上溝かるたをつくる会

1 背景と目的

感染症対策の行動自粛等により、地域の行事や交流活動のできない状況になり、2年が経過している。この状況の収束が見えない中、地域住民同士の関わりや郷土に対する関心が希薄になることが懸念されることから、地域の関連機関と連携して地域活性化を図ることができる取組が必要であると考えた。

2 内容

地域の団体や教育機関等と連携・協力して、地域のよさや歴史などをもとにした「上溝かるた」を作成することを通して、地域交流の促進と郷土に対する関心を高める。作成したかるたを地域の学校・自治会などの団体や地元企業や商店街等にも配付したり、活用したりする活動を通して、上溝地域の新たな発見と新しい地域交流のあり方を提案する。

総事業費：850,000円

うち交付金額：850,000円

3 成果と今後の展望

- かるたの作成を様々な関係機関に依頼し共同で作成することにより、作成に携わった児童の保護者や知人などを中心に自然と話題になり地域交流が生まれた。また、「上溝かるた」への関心を高めることもできた。
- 小学校を訪問し、小学生とかるた大会を実施。次年度以降は行動制限が解除されることが見込まれるので、引き続き「上溝かるた」を通して、近隣の学校や地域の方との交流を図る。



上溝かるた(1,000セット作成)



上溝かるたをつくる会と上溝小学校
3年生とのかるた大会の様子

(参考) 実施経過

実施日	参加人数	内容
6月	約100人	上溝小学校3年生にかるたの読み札作成を依頼する。
6月	約100人	上溝小学校3年生に上溝地区の特徴やよさについて講演する。
12月	約15団体	地域の学校や施設の方に絵札作成を依頼する。
3月	約600人	完成したかるたを使って、小学校内でかるた会を開く。
3月	約100人	上溝小学校3年生とかるた会を開き一緒に楽しむ。

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： **すきだよ かみみぞ
～上溝かるたをつくろう～**

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)	
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。		感染症対策の行動自粛等により、地域住民同士の関わりや郷土に対する関心が希薄になるのではという懸念に対し、子供も大人も楽しく携わり地域活性化を図ることができる良い取組だった。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	2 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。		
		3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。			
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。		設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても不適切な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。			
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。		事業の企画や周知、運営に至るまで、会員を中心に主体的に事業が実施された。
			2 事業が主体的に実施されたか。		
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。		本事業は「地域交流の促進と郷土に対する関心を高めること」を主目的としているものであり、今後、地区全体にその効果をもたらすものと期待される。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。		小学校やサークル団体と連携してかるたを作成し、完成したかるたでかるた大会を実施することで、地域に深い繋がりや交流が生まれた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。		地域交流の促進と郷土に対する関心を高めることに寄与する事業は、区別計画に掲げる目的に沿った内容であった。子どもから大人まで幅広く参加できるかるたに着眼し、完成したかるたを使いこれから普及させていこうとする本事業は、高く評価できる。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- : 実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- : 実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- × : 実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

- A : B評価の基準を満たし、かつ、が複数つく場合
- B : 評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C : ×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

上溝地区「(仮称)「上溝ボランティアセンター」の立ち上げと健康づくりスタンプラリー」

上溝地区社協交流の家(ぶらっと上溝)運営部会

1 背景と目的

上溝地区内においては個々のボランティア団体が、それぞれ活動を続けていたが、新たな担い手の確保などに苦慮している。また、ボランティア活動を希望する住民にも情報を得る機会が少ないのが現状である。こうしたことから上溝地区の福祉の向上と課題解決のため、福祉事業を推進し情報提供を行う拠点施設が必要となる。

上溝地区では平成28年度に地区内の各種施設に木製ベンチを作成したが、そのベンチを修復するとともに有効活用を図る。

2 内容

(仮称)上溝ボランティアセンターを立ち上げ、福祉事業を推進するとともに、ボランティア活動に関する情報発信を行う。

参加者が地区内を歩くことにより健康増進を図るとともに楽しみながら地区内の施設をめぐることで、地域への愛着を深め、幅広い世代間の交流促進を目的とする。上溝地区内を3分割したマップに地域内の福祉施設とベンチ設置箇所を表示したものを作成し、期間を設定して、施設・ベンチ巡りを行う。コロナ禍でもあるため、施設への入場は避けて入り口付近やベンチ側面などにステッカーなどを張り付けておきそれを見つけるスタンプラリー形式で実施する。

総事業費：598,824円

うち交付金額：529,000円

3 成果と今後の展望

上溝ボランティアセンター設立において広報や看板の設置を通じ、ボランティアに関してひろく地域に啓発することができた。また、ボランティア活動に関心がある人同士のつながりをつくることができ、身近な地域で支えあう地域づくりの一歩となった。

スタンプラリーは参加者の健康づくりに寄与した。

また、知らなかった福祉施設や拠点を知ることができたとの声もあり、地域の福祉や拠点を周知することができた。



ぶらっと上溝ラリーチラシ

(参考) 実施経過

実施日	参加人数	内容
4月20日	13人	ベンチ補修に向けた役割分担、ラリーマップ掲載内容、ラリーールの検討
6月23日	15人	ラリーマップ掲載内容、ラリーール、景品の検討、福祉施設への依頼について
11月20日	10人	上溝ボランティアセンター除幕式
12月5日	6人	ボランティアセンター受付開始(毎週月曜日実施)
12月7日	12人	ボランティアセンター登録者説明会
3月15日~5月15日	-	ぶらっと上溝ラリー開催

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： **上溝地区「(仮称)「上溝ボランティアセンター」の立ち上げと健康づくりスタンプラリー」**

項目	内容	評価の視点	評価	コメント (項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など)
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。	ボランティアセンターの立ち上げにより広く地域に情報提供、啓発を行うことや、ラリー事業の実施により地域のつながりを作るなど、地域ニーズを反映した事業であり、数値目標等は設定していないものの、解決すべき地域課題は明確だった。
		2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。		
		3 第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。		
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。	設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても不適切な点は見られない。
		2 支出は明瞭かつ妥当であったか。		
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	事業の企画や周知、運営に至るまで、部会員を中心に主体的に事業が実施された。
		2 事業が主体的に実施されたか。		
		3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。		
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	本事業は「ボランティア活動の普及啓発」を主目的としているものであり、今後、地区全体にその効果をもたらすものと期待される。
		2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。		
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。	予定していた内容の一部は継続中だが参加者も増加しており想定した目標は達成している。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	ボランティア募集を通じてこれまでかかわりのなかった方達をつなげる事業は、区別計画に掲げる目的に沿った内容であった。ラリー実施によって地域資源の活用し、広く地域に情報発信したことは、高く評価できる。
		2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。		
		3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。		

各視点の評価

- ：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価(A・B・C)

B

総合評価の基準

- A：B評価の基準を満たし、かつ、**が**複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、**×**のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

令和4年度実施

中央区 地域活性化事業交付金 事業まとめ誌

発行 令和5年5月

編集

相模原市 中央区役所

相模原市中央区中央2丁目11番15号(市役所本館1階)

お問い合わせ先

中央6地区まちづくりセンター

電話 042-707-7049 F A X 042-757-2941